

# NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第73号(201508)

発行 竹田幸男



楽寿荘で合同例会参加者の一部

## 映像協会合同例会を楽寿荘で開催

7月19日(日)、寝屋川市映像協会の主催で映像寝屋川との合同例会を行いました。今回はレクリエーションを兼ねて京阪光善寺駅近くの丘の上にある「楽寿荘」を会場に、午前11時に開会して、まず大阪アマチュア映像祭の出品作品候補の選定を行い、竹下会員の作品「巨木探訪」次いで映像寝屋川の西田会員の「拝啓 イタセンパラ殿」を映写し、出品作品として確認を受けました。

続いて乾杯、昼食に入り、懇談の合間に両クラブの会員の作品や、過去の合同作品の映写を行い、午後3時に終了しました。

## 例会の窓

### 平成27年7月例会

日時：平成27年7月8日（水）

13：30 産業振興センター

5F 会議室（小）

出席者：新井 小笠原 小林 佐伯 竹下 竹田  
谷 田淵

欠席者1名（50音順・敬称略）

#### 例会次第

今日は、たまたま会場を所用で訪れた映像協会の小北相談役が飛び入りで参加された。

#### 1. 各会員の最近の活動状況・情報交換

#### 2. 報告・連絡・協議事項

（1）会報筆者 新井さん

（2）初級撮影会兼編集講習会(5/21)の結果は

- ・撮影・編集講習会を1日で行ったため全体の流れがつかめ、効果があったと思われる。

（3）映像協会撮影会

- ・日時：6月11日（木）10時寝屋川市駅集合、万博記念公園の予定の所雨のため中止・延期、再度計画を練り直して行う。

（4）7月の合同例会は別会場で

- ・レクリエーションを兼ねて光善寺・楽寿荘で7月19日（日）開催計画  
11：00現地集合、会費2,500円。

参加者：新井 天野 小林 佐伯 竹下 竹田 谷

（5）今年の大阪アマチュア映像祭出品作品の検討

- ・竹下さんの作品を候補として7月合同例会で投票決定。

（6）市民文化祭作品は、9月例会で締め切り。

（7）9月12日（土）映像北大阪との合同例会予告

- ・守口市民センター4F「音に関して」ビデオくんソフトなど開発された岡沢さんのお話と作品映写、その後「さと」にて懇親会を行う。

#### 3. 映写

（1）佐伯さん 「秋の岩船寺・浄瑠璃寺」 12分

- ・初めての自主編集作品、時間がなかったので映像のみ。次回は音楽とナレーションを入れたものを期待します。
- ・バスの場面を短くする等、また同じような場面を整理して半分位の時間でま

とめられては。次回を楽しみにしています。

(2) 谷さん 「小川紫陽花園」 6分

- ・紫陽花の写真等を撮り続けて5年目。毎年小川さんに、プレゼントする喜びがあります。本日映像協会の小北相談役から貴重なご意見を頂けた。花アップや花の下から撮影。全景のわかる映像もあれば、とのこと。オーバーラップで雰囲気を作ってはどうか、という意見も。

(3) 竹下さん 「はないちもんめ」二条城VS醍醐寺 10分

- ・ナレーションを佐藤さんに依頼。ナレーションが入ると一段とよくなりました。タイトルの地模様にも工夫されたとのこと。

(4) 小笠原さん 「夏から秋の公園風景」 9分

- ・スロージョギングをはじめられた小笠原さん。自撮りもあり、本来の小笠原さんらしい映像でいい作品でした。

(5) 竹田さん 「運転席でGO！」 9分20秒

- ・電車の運転席の中に入れてもらっているかのような撮影が続く。最後の場面で納得。ぶれずに撮影されているのには感心との指摘があった。

(6) 竹田さん BGV「パリ散策」 長いのでルーブル美術館/シャンゼリゼの部分のみ映写する。

4. 会員の当面する問題点等

5. 来月の開催日 8 / 12 (水)



## アルコール依存症からの脱出

新井 正直

今回は、映画を離れて、昨年末に、大学病院で、ものわすれ外来を受診して、脳の委縮が、飲酒で年齢相当より進んでいると言われ、この酒量〔清酒に換算して4合から6合〕を毎日飲むのは、アルコール依存症で、酒を飲み続ければ、3年後には、認知症でない、ボケが進み、何も解らなくなり、人に迷惑をかけるので、禁酒をして下さいと医者から言われ、精神科のクリニックを紹介される。

クリニックでは、ドクターの診察と、抗酒剤〔お酒が欲しく成らない薬〕の投与と、アルコールミーティングおよび、マトリックスモデルによる認知行動療法の講座を受け、この6ヶ月間は、一滴のアルコールも、飲んでいないです。

アルコール依存症になるお酒は、昔から、きちがい水と呼ばれ、ひとの理性を失わせると、言われています。

また アルコール依存症は、WHO が、1992年、ICD-10で精神作用物質(使用することで気分や認知や行動が変化し障害が生じる物質)による障害としてアルコール・薬物依存症と定義しています。

アルコールは、モルヒネ等の麻薬と同じで、だんだん量を増さないと、効がなくなり、中毒に成ります。

その講座では、アルコールが、深刻なダメージを与える臓器として、一番が脳で、二番目は生殖器、よく知られている肝機能障害をはじめ、各臓器にも機能障害を与えることを知る。

私は、20歳未満で飲酒し、肝機能障害が無かったので、安心していましたが、アルコール依存症は、成人男性で、一日平均で、清酒に換算して3合の酒量で10年、未成年者は3年、成人女性は、5年〔体格やホルモンの影響〕の歳月でなると言われています。一般的には、未成年者へのアルコール販売は、禁止され、人体に悪影響等を与える説明は、私どもの世代には、なかったです。今でも、中学生・高校生への説明が、始まったばかりで、授業を行われている学校は、少ないようです。

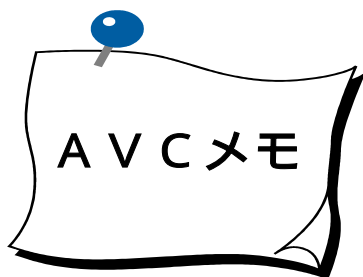
クリニックの講座では、参加者が講義を聞くのみでなく、自分の考えや、体験を講義のあとで、聞かれます。参加者は、年齢もバラバラで、禁酒は一生行い、『しらふ』でいる必要がありますが、脳は、過去の快感を記憶していて、数多い再飲酒の機会を、狙っていることを知って、対処する必要があります。

私のような後期高齢者は、『しらふ』で居る期間も短いですが、若い人たちは、何十年間耐える、覚悟を持たなければならないのは、大変だなと思います。しかし生涯断酒も一日断酒を、積み重ねていけば、達成されます。

『しらふ』で6ヶ月間を、過した現在から、飲酒していた約60年を、振り返って見ると、イライラ、不安などの精神的ストレスや眠れないときに飲酒していたが、アルコール依存症の私には、幾ら飲んでも、酔えないので、解決されなかった。精神的ストレスは、『しらふ』で、問題を解決するしか無い事を知り、実行しています。

最後に、禁酒して変わった事は、コカコーラのゼロを飲み、甘いカリントウやビスケットを食べる甘党になり、食事が美味しくなり、太ってる人も有るようですが、私は、今のところ、太っていません。

糖尿と太ることには、気をつけて、生涯断酒を、続けていきます。



## 「35ミリ換算」

竹田 幸男

引き続きカメラの話題になりますが、今回のお題は「35ミリ換算」です。カメラのカタログや取扱説明書には、必ずと言っていいほど出てきます。これは、どういう意味を持つのでしょうか。

曾て、35ミリカメラ全盛時代、標準レンズと言えば焦点距離50ミリのものでした。この標準レンズが、人間の視覚に最も近く、画角が広すぎず、狭すぎず、最も安定した画像をとらえるレンズと考えられていました。

それに対して広角レンズと言えば焦点距離35ミリ、これが次第に標準レンズに近い存在となり、準標準レンズとも言われ、広角レンズは、28ミリ、24ミリと短くなる方向に向かいました。焦点距離が短くなると前回に述べたように焦点深度が深くなり、シャープに写る範囲が広がるので、じっくりピント合わせをしている暇のないスナップ写真に好んで使われました。この辺になると、もう画像は樽型にひずんでいき、それが新しい表現になると、もてはやされた時期がありました。

一方、焦点距離50ミリを超えると長焦点レンズ、望遠レンズと言われ、85ミリ、105ミリ、135ミリなどはポートレート撮影に多く使われていました。前回も述べたように焦点距離が長くなると焦点深度が浅くなり、ピントの合った所以外はぼけてきて情緒的な表現ができるのでポートレートに好んで使われました。

このように曾てはフィルムサイズは35ミリ幅、その撮影画面は24×36ミリ（横×縦で表現すると36×24ミリ）でした。その画面に対する標準レンズが50ミリでした。この画面サイズに対する焦点距離の相対関係が上記のようにカメラマンの頭にしっかり刻み込まれていました。

やがてカメラはデジタルの時代に入り、フィルムに代わってCCDやCMOSなどの半導体撮像素子で画像を取り込むようになり、さまざまな寸法の撮像素子が作られました。撮像素子が大きいと相対的にレンズも大きくなり、コストも重量もかさむので小さい撮像素子が作られました。フィルムのような互換性（どのカメラにも使える）と言う必要がないので様々な種類の大きさの撮像素子が作られました。主なものを挙げてみると下表のようになります。



主な用途	種類	画面サイズ 横×縦(mm)
デジタルカメラなど	フルサイズ	36×24
	APS-C	23×15
	フォーサーズ	17.3×13
	1型	13.2×8.8
	2/3型	8.8×6.6
	1/1.7型	7.6×5.7
	1/2.3型	6.2×4.6
ビデオカメラなど	1/3型	4.8×3.6
	1/4型	3.6×2.0
	1/6型	2.4×1.8

この中で家庭用ビデオカメラなどに使われる最も小さい部類に属する1/6型（ろくぶんのいちがた）の画面サイズの対角線長は、

$(2.4 \times 2.4 + 1.8 \times 1.8)$  ですから3ミリです。

基準になる35ミリフルサイズの画面サイズの対角線長は

$(36 \times 36 + 24 \times 24)$  で、43.27ミリです。

1/6型の撮像素子を使ったカメラで、35ミリ換算で「50ミリ」に相当する焦点距離を求めるには、画面サイズの対角線長同士の比例計算をすれば、

$50 \times 3 / 43.27 = 3.46$  (ミリ) となります。

つまり1/6型の撮像素子をもつビデオカメラで、「35ミリ換算」で「50ミリ」と表現されるレンズの焦点距離fは、実はなんと3.46ミリという短い焦点距離のものになるのです。

35ミリフルサイズの焦点距離50ミリのレンズを持つカメラと、35ミリ換算で50ミリと表現されたレンズを持つカメラとでは、同じような範囲が写った画像が得られるはずですが、換算値は同じでも小さい焦点距離のレンズで撮った方の画像は焦点深度が深いなど、全く同じ画像が得られるものではありません。

また、全く別の見方ですが撮像素子が小さいと、同じ画素数であったとすれば1画素当たりの面積は小さくなるので、ノイズが増えるなど、画像の善し悪しに関係してきます。結局大きい撮像素子の方が良い、と言うことは、レンズも、カメラも大きくなる、高くなる、と言うことになってきます。

こういうことを考えながらカメラを選択し、そして撮影をしてもらえたら、よりよい作品作りにつながるものと思います。